

白彊前進

NO. 1 平成30年4月9日(月)
附属新潟中学校 学校だより

※ 白彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の文言から)

平成30年度入学式

4月6日(金)入学式が行われ、119名の新しい附属新潟中学校生を迎えました。大勢のご来賓、保護者の皆さんにご臨席を賜り、ありがとうございました。職員一同、全力で生徒たちの成長を支援いたします。



【深海璃彦さんの力強い決意】

【清新な気持ちで臨む119名】

はげましの言葉

校長 垣水 修

本日、新潟大学教育学部附属新潟中学校に入学された119名のみなさん、ご入学おめでとうございます。私ども教職員および在校生一同、みなさんを新しい仲間として、心から歓迎いたします。

また、ご列席の保護者のみなさま方におかれましては、お子様のご入学まことにおめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

学校を代表し、新入生のみなさんに「はげましの言葉」を贈ります。

新入生のみなさん、今日から附属新潟中学校の一員です。中学校の3年間は、大人になる準備をする期間にあたります。

附属新潟中学校では、自然界の仕組みや現代社会の抱える課題についてさまざまな視点から学習します。そして仲間と積極的に議論しながら、自分自身の考えを持ち、自分自身で判断する力を養います。そのためには、ひとりひとりが主体的に、潜在的な力を最大限に引き出しながら、学んでいくことが求められます。そして、自分には何ができるのか、何がしたいのかを追究していきます。それが、本校の教育目標である「生き方を求めて学ぶ生徒」の姿でもあります。

さて、わたしたちがものごとについて知り、ものごとについて研究する方法は、科学的方法と呼ばれています。きょうは、ルネサンスよりも前の12世紀に、科学の時代の基盤を準備したとされる、シャルトルのペルナルという人の言葉を紹介します。

「われわれは巨人の肩に乗った小人のようなものである。それゆえに、われわれはその巨人よりももっと多くのものを見ることができるし、もっと遠くまで見ることができる。しかしそれは、われわれ自身の背が巨人よりも高いからではなく、まさにわれわれが巨人によって高く持ち上げられているからだ。」

これからの社会を担うみなさんは、様々な分野にまたがった、すぐには答えの出ない問題に取り組んで行かなければなりません。そのためには、これからの中学校の三年間では、「学びを通して、学び方を学ぶこと」を、心がけてほしいと思います。

また、生徒会活動などの活動に積極的に取り組むことも大切です。その経験は、これから出会うさまざまな試練を乗り越えて大きく成長するために、きっと役立ってくれるだろうと思います。

最後になりましたが、本日はご多用の中、当校の入学式にご臨席賜りましたご来賓のみなさま、そして保護者のみなさまに、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

以上で、私から新入生のみなさんへの、「はげましの言葉」といたします。

平成30年4月6日 新潟大学教育学部附属新潟中学校長 垣水 修

<お世話になります>

7名が新任職員として着任いたしました。よろしくお願いいたします。

職名	氏名	前任校, 教科
校長	垣水 修	
副校長	佐藤 靖子	新潟市立中野小屋中学校
教諭	清野 恵	柏崎市立鏡が沖中学校 技術・家庭(家庭分野)
教諭	山田 耀	新潟市立白新中学校 社会
講師	大田 愛子	新任 英語
講師	藤井 貴子	村上市立瀬波小学校 理科
講師	曾根 秀峻	新任 社会



【校長より保護者の皆様へご挨拶】



